

①健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

幼児期
(学びの芽生え)

入学

児童期
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・体を動かす様々な活動に自分なりに目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしていたりして、主体的に取り組む。
- ・衣服の着脱や、場や季節に応じた服装を自分で調整できるようにする。
- ・自分で排泄や始末ができ、和式のトイレも使えるようになる。
- ・危険を認知し周囲の安全に気をつけて行動する。自分たちでルールや遊び方を考えたりに守ったりして遊ぶ。

- ・健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にする気持ちをもつ。
- ・基本的な交通ルール(右側通行、信号の見方、横断歩道、道路の横断)が身に付くようになる。
- ・避難訓練などを通し、災害時や非常時に対する心構えや自分で自分の身を守ろうとすることができるようになる。
- ・自分の身の回りのことを(持ち物・片付け・整理整頓)を自分でしようとする。

- ・いろいろな食べ物に親しみ、好き嫌いなくみんなと一緒に楽しく食べることができる。
- ・野菜を育てたり、収穫・料理などを通して食べ物への関心をもち、栄養などにも気付くようになる。
- ・集団での生活の流れなどを予測して、準備や片付けも含め、自分たちの活動に、見通しをもって取り組む。
- ・病気の予防に関心をもち、体の不調を、身近な大人に知らせることができる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・自分なりの目的を見つけ、取り組むことができるよう、一人一人の育ちや課題に合わせて関わる。
- ・遊びに使う遊具や用具を子どもたちが自分で出し入れできるように準備したり、力いっぱい体を動かす気持ちよさや楽しさを感じたりできるようにする。
- ・失敗してもまた取り組みばいいことや、繰り返し取り組むことでできるようになっていることを具体的に伝えていく。
- ・基本的な生活習慣では、個人差を考慮して保護者への啓発を行い、家庭の実態に応じた取り組みを考えていく。

小学校教員が大切にすること

- ・自分がやりたいことを自己決定し、意欲的に取り組んだり、達成感を味わったりする。
- ・運動遊び(体育)や休み時間などに思いきり体を動かして遊ぶ。
- ・次の時間の活動を考えて準備したり、時計を意識して活動したりするなど、見通しをもって行動する。
- ・体操服や水着の着替えなど、衣服の着脱が自分でできる。
- ・手洗い・うがい・汗拭きや食事、排泄などを自分で考えて行い、健康に気を付けて生活する。
- ・安全に気を付けて登下校する。

- ・活動の中で、児童が道具や材料を選ぶなど自己選択・自己決定する場面を多く設定し、主体的な学びにつながるように留意する。
- ・教師が児童に指示を出すばかりではなく、児童が幼児期の経験を生かして自ら考え、判断し、行動することができるように支援する。(「どうしたらいいと思う?」「園ではどうした?」と尋ねる。)

②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

幼児期
（学びの芽生え）

入学

児童期
（自覚的な学びへ）

子どもの姿

- ・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならないことを自覚して行う。
- ・自分も友達も大切にできるようになる。
- ・小学校生活への期待をもって、意欲的に遊びや行事に取り組むことができるようになる。
- ・日直活動を一人で行い朝の会や帰りの会を進めるなど達成感を感じる。
- ・異年齢の友達の世話や手伝いはりきって行う。

- ・自分のことは自分でやろうとし、できないことは先生や友達の助けを借りて、自分で行おうとする。保育者の励ましや促しがほしい時もある。

- ・いろいろな活動や遊びにおいて失敗してもあきらめずに自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつようになる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・自分なりの課題を見つけて繰り返し挑戦したり、最後まで頑張ろうとする姿を認め、充実感や満足感が味わえるようにする。
- ・小学校生活に期待が高まる反面、不安をもつ子どももいる。生活面や友達への関わり、いろいろな運動遊び、用具の使い方など一人一人の状況を把握し、具体的に関わる中で自信をつけていく。
- ・異年齢児と接する中で、自分自身の成長を感じられたり、人の役に立つ喜びを感じられたりするなど自信をもって行動するようにしていく。

小学校教員が大切にすること

- ・児童が幼児期の経験を生かして活動できるように、児童にこれまでの経験を尋ねたり、自力で活動するように任せたりする場面を意識して取り入れる。
- ・児童が自分たちで工夫して取り組んでいる姿を受け止め、言葉を掛けたり、他の児童に広げたりする。

- ・担当する当番や係活動の仕事に、活動する時間帯を考えたり、活動の仕方を工夫したりしながら取り組む。
- ・自分の意見を先生や友達に進んで発表する。
- ・分からないことや難しいことがあれば先生や友達に聞きながら活動する。
- ・生活や学習での課題を自分の課題として受け止め、最後まで諦めずに粘り強く行動しようと努力する。

③協同性

友達との関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

幼児期
(学びの芽生え)

入学

児童期
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・いろいろな友達と積極的に関わり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
- ・友達と協力し、必要な時に集団行動が自分からとれるようになる。
- ・友達と一緒に遊びを考えたり、ルールをつくって楽しく活動できるようになる。

- ・相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、葛藤したり、折り合いを付けるなど気持ちを切り替えたりしながら、分かり合う。
- ・自己主張がぶつかりけんかになったり、思いや考えが違っていると感じたりする経験をしなが、だんだんと共通の目的に向かって、友達と考えや思いを出し合い遊びを進めていこうとする。

- ・クラスの様々な仲間との関わりを通じて互いのよさを分かり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。
- ・クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞いたりしながら遊びを進めていけるように見守ったり投げかけたりする。またいざこざが起きた時は、自分たちで考え解決しようとする過程を大切にしていく。
- ・一人一人が力を発揮して目的をもち、実現できるように、一緒に考えたり、クラスで気持ちを合わせていく機会をもち、意欲や自信へとつなげていく。
- ・友達の得意なことや知っていることを学級で認め、遊びや生活の中で自信をもって力を発揮できるようにする。

小学校教員が大切にすること

- ・4月当初から、2人組だけでなく、4人程度のグループで話し合う活動(ゲームなど)を取り入れるようにする。
- ・児童の思いや考えを共有する場を設定し、自分たちで実現に向けて取り組むことで充実感もてるようにする。

- ・少人数グループで自分の意見を発表し合ったり、話し合っ意見をもとめたりする。
- ・同じ目的に向かってグループや学級全体で取り組む中で、互いのよさに気づき、仲間と一緒に活動することの楽しさを感じる。

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

幼児期
(学びの芽生えの後半)

入学

児童期
(自覚的な学びへ)
一年生の入学当初

子どもの姿

- ・相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別などを考えて行動する。
- ・仲間意識ができ、一緒に過ごす中で、友達のよさに気付く。

- ・他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- ・友達の気持ちに気付いたり、折り合いを付けたりし、自分の気持ちを調整できるようになる。

- ・クラスのみなどと心地よく過ごしたり、より遊びを楽しむためのきまりがあることが分かり、守ろうとしたりする。きまりを必要に応じて作り替えたり、新たにつくったりする。
- ・みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う。

保育者が大切にしてきたこと

- ・日々の様々な出来事について一人一人の気持ちに添いながら、場面や機会をとらえて内容に応じて周囲の仲間に伝えたり、クラスで考えたりしていく。
- ・子ども同士のいいところ探しにつながるように、保育者も子どものよさを言葉にして伝えていき、子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をする。
- ・友達やクラス全体で協働する楽しさや、充実感を味わえるような機会をつくり、クラスの一人一人が大切な仲間であり、かけがえのない存在であることを感じ取れるようにする。

- ・友達と過ごす中で、自分の言動を振り返り、自分の気持ちや行動を調整する。
- ・友達と意見の違いがあっても、相手の気持ちを考え理解しようとする。
- ・学校のきまりやルールは、みんなが楽しい学校生活を送るために必要であることを理解し、自分たちできまりを考えることができる。また、そのきまりを守ろうとする。

小学校教員が大切にすること

- ・「～しましょう」「～はしません」と教師が一方的に指導するのではなく、幼児期の経験を引き出しながら、「どうすればいいのか」「どのようなルールが必要か」ということを話し合い、きまりをつくっていくようにする。

⑤社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期
(学びの芽生え)

入学

児童期
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・小学生・中学生、地域の様々な人々に、自分からも親しみの気持ちをもって接する。
- ・親や祖父母など家族から愛されていることに気付き、家族を大切にしようとする気持ちをもつ。
- ・機会を捉えて外国の人や文化に触れあい、親しみや関心をもつようになる。

- ・地域のお店に買い物に出かけたり、一人暮らしのお年寄りに手紙を書いたりし、関係の深い人々とのふれあいの中で、自分が役に立つ喜びを感じる。
- ・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。

- ・四季折々の地域の伝統的な行事に触れ、自分たちの住む地域に一層親しみを感じる。
- ・公共の施設を訪問したり、利用したりして、自分にとって関係の深い場であることが分かる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・普段から地域や地域の方との交流を大切に、園にとって地域が重要な役割をもっていることを知ってもらい、様々な情報や機会を得られるようにしていく。
- ・地域の方が園や子どもたちの存在を大切に思ってくれることなどを折に触れて子どもたちに伝え、喜びとして感じられるようにする。
- ・就学時健診や小学生との交流などを通して、小学校生活を身近に感じ、期待をもてるようにする。
- ・一人一人が自信と誇りをもって就学を迎えられるように、不安を感じている子どもには特に配慮していく。

小学校教員が大切にすること

- ・子どもたちの安全や学校生活を見守ってくれている地域の方との出会いを仕組み、繰り返し関わることで、児童の身近な地域の方への思いや愛着が深められるようにする。
- ・「がっこうたんけん」等で校長先生・教頭先生・養護教諭など様々な先生と関わったり、話を聞く機会などがもてるようにする。

- ・登下校を見守ってくれている地域の方に、元気よく挨拶をしたり感謝の気持ちを伝えたりする。
- ・学習活動の中で必要な情報を家族から聞いたり本で調べたりして集め、その情報を伝え合う。
- ・縦割活動や行事を通して出会った上級生と休み時間に触れ合ったり、一緒に掃除などの活動を喜んでする。

⑥思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組み等を感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

幼児期
(学びの芽生え)

入
学

児童期
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・自分の考えを出したり、友達の思いを聞いたりして、より遊びが楽しくなるように、必要な物や場、役割などを考えて遊ぶようになる。
- ・今までの経験を生かして見通しをもったり、自分なりのこだわりをもったりして遊びを進めるようになる。

- ・身近な物や用具などの使い方を知り、性質を知って、イメージを膨らませたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら遊びに取り入れる。

- ・友達の考えに触れる中で、自分の思いや考えを考え直したり新しい考えを生み出そうとする。

保育者が大切にしてきたこと

- ・自分たちで遊びの計画を立てたり、目的をもって取り組めるよう、必要な用具や素材を十分に準備し、じっくり関わる時間や空間を大切に、子どもたちで探したりして、イメージに合った環境をつくっていきけるようにする。
- ・自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞こうとしたり、お互いのよさを見つけ認め合いながら、一人一人の存在が生きる仲間づくりを考えていく。
- ・思い通りにならない時も、別のやり方を考えたりやり直したりして自分でやり遂げるよう、子どもに応じた関わりをする。
- ・すぐに答えを出したり導いたりするのではなく、子ども自身が気付いたりおもしろいと感じることを受け止めたり共感したりする。

- ・学習に興味関心をもち、自ら試したり本で調べたりしながら、じっくりと考える。
- ・友達の発言を聞く中で、自分の考えとの違いに気付き、友達の発言のよさを認めて自分の考えに取り入れる。
- ・植物や野菜を育てる活動の中では、どうすれば植物や野菜が大きく生長するかを自分なりに考えて世話を続け、植物や野菜の生長の様子から自分の世話を振り返りながら、よりよい世話の仕方を考える。

小学校教員が大切にすること

- ・幼児期の経験を生かしたり、児童同士の意見交流の場を取り入れたりしながら、児童の探究心や好奇心を引き出すような状況をつくるとともに、児童の「こうしてみたい」という願いをもたせるようにする。
- ・「次はこうしよう」など、児童が試行錯誤しながら見通しがもてるようにする。

⑦自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

幼児期
（学びの芽生え）

入学

児童期
（自覚的な学びへ）

子どもの姿

- ・自然物や自然現象に心を動かし、いろいろな場面で使ったり、遊びの中に生かしたりしようとする。
- ・水や氷、日向や日陰など、同じものでも季節により変化するものがあることを感じ取ったり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする。
- ・季節の変化を感じ、四季のあることを知ったり楽しんだりする。

- ・季節の草花や木の実などの自然の素材や、風、氷などの自然現象を遊びに取り入れて、面白がったり、工夫したりする中で、自然の不思議さを感じたり、感動したりできるようになる。

- ・身近な動物との触れ合いや世話をすることで、愛着を感じたり、分からないことを調べたりし、感動したり、時には死に接し、命あるものとして大切にようになる。
- ・植物の栽培を通じて、世話をすることで生長したり収穫したりする喜びを味わう経験や、台風や野鳥などで収穫ができなくなった経験などを通して、子どもなりに自然の偉大さを知ることができるようになる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・身近な自然に積極的に関わり、自然物を集めたり、自然の移り変わりや美しさ、面白さなどを感じていけるようにする。また、子どもたちの発見や考えを周りに広めたり、共感したり、保育者自身が感動したり感性豊かに関わる。
- ・季節の移り変わりに気付いたり、興味をもったりできるように、戸外で積極的に遊ぶなど機会がもてるようにしていく。園内外の自然環境や作物の栽培などについて、場所の確認や知識を深めておく。
- ・子どもと共に動植物への出会いを楽しみ、もっとよく知ろうとする気持ちを大切にしていく。保育者自らも生き物などに愛着を持って関わる姿を見せていく。

- ・春の校庭などの身近な動植物に関心を持ち、探したり関わったりする。
- ・花や野菜を育てる学習では、幼児期の経験を生かしながら植物の生長に合わせて世話の仕方を考え、親しみをもって世話を続ける。
- ・花や野菜の生長の様子を進んで観察し、気付いたことや育てる喜びを絵や文字で表現する。

小学校教員が大切にすること

- ・昆虫や植物などの世話を続ける中で、「自分の〇〇」を育てているという意識を高め、大切に育てながら、生命の不思議さや尊さに気付くことができるように留意する。

⑧数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

幼児期
(学びの芽生え)

入学

児童期
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

・生活や遊び(砂場・積木・栽培物の収穫など)を通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、高低、広さや速さ、図形に関心をもつ。また、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。

・日常生活の中で文字や数や表示などに関心を持ち、描いたり(書いたり?)数えたり計ったりなど適当な表現方法を知り、生活や遊びの場面で使ってみる。

・文字や数を使って表現できることを知り、手紙などを書いて、相手に伝えることのうれしさを感じ、意欲的に使ってみようとする。

保育者が大切にしてきたこと

・生活や遊びの中で、数量に親しむ経験を重ねていけるようにし、幼児なりに必要感をもって並べたり、比べたり、量ったりして、数量の感覚を豊かにしていく。
・買い物体験の中で、地域の方とやり取りしたり本物のお金に触れたりして、自分でお金を払う体験ができるようにしていく。
・一斉に教えたり導くのではなく、園生活の中で、自然に文字や数量、鉛筆の持ち方などに触れられるような環境を整え、幼児なりの必要感をもって、伝える喜びや、楽しさを味わえるようにしていく。また、子どもたちの問いには丁寧に対応する。

・幼児期に育まれた数に対する感覚を生かして、ものの数を数えたり、数の大小や数の合成・分解を理解したりする。
・文字を使って自分の思いを伝えることができる喜びを感じながら、ひらがなの学習に関心をもって取り組む。

小学校教員が大切にすること

・幼児期の遊びや生活の中で、児童は実際に物の数を数える経験をしてきている。そこで育まれた数に対する感覚を大事にしながらか学習を進めるようにする。
・文字を学ぶことで、人に思いを伝えることができるようになるという喜びを共有しながらひらがな学習を行う。

⑨言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

幼児期
(学びの芽生え)

入学

児童期
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・相手の意見に耳を傾けたり、自分が言いたいことを理解してもらおうとしたり、お互いのよさを認め合って遊びを進めていこうとする。

- ・自分なりの言葉で思いや考えを相手に分かるように話したり、人の話を最後まで聞こうとしたりして、その思いや考えに気付くことができる。

- ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって見たり聞いたり、想像したりする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、想像の世界を友達と共有し言葉による表現を楽しんだりする。

保育者が大切にしてきたこと

- ・言葉でうまく表現できない場合には、まず子どもの思いを保育者が受け止め、気持ちや考えを言葉にして返す援助を丁寧に行う。
- ・言葉遊びを楽しむ中で、いろいろな言葉や表現方法を知ったり関心をもったりできるようにする。また、子どもの好きなお話を繰り返し読んだり言葉のやりとりを楽しんだりして、表現する活動を取り入れる。
- ・子どもの思いや感じていることを言葉として引き出したりし、言葉で表現したり伝わるうれしさを感じられるようにする。

小学校教員が大切にすること

- ・児童が言葉で伝えたい課題を設定し、相手に自分の思いが伝わった喜びを実感できるように活動を工夫する。
- ・教師の伝えたいことは、ポイントをおさえて伝えるように心掛け、児童が自分で友達と確かめたり、分からないことは質問したりできる時間をとるようにする。

- ・教師の読み聞かせを聞き、話の世界に浸る。
- ・友達に対して進んで自己紹介をしたり、友達の自己紹介を楽しく聞いたりする。
- ・友達と互いに思いや考えを言葉で伝え合い、受け止めたり認め合ったりする。
- ・自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする。

⑩豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼児期
(学びの芽生え)

入学

児童期
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにもちながら、楽しく表現する。
- ・身の回りの出来事や自然事象に触れ、変化に気づいて感動したり喜んだりする。
- ・絵本、詩、物語などを聞いて表現したり言葉の面白さや美しさに気づく。

- ・音色の美しさを感じながら、歌ったり楽器の演奏を楽しんだりする。リズムやテンポなど、音楽の特徴を感じながら、のびのびと身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- ・生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったり、演じて遊んだりする。

- ・友達同士で表現し合うことで、様々な感じ方や表現の面白さに気付いたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする。

保育者が大切にしてきたこと

- ・保育者も感性豊かに心を動かし、表現してみせる。また子どもとともに感じたり表現したりすることを楽しんでいく。
- ・素材や教材を適材適所で生かせるように、教材研究をする。
- ・一人一人の感じ方や表現の違いを尊重する。自分と違っていても、けなしたり笑ったりしないことや違いに気づき受け入れることを大切にする。
- ・お話を演じたり自分たちで劇に創り上げたりする経験では、子どもの表現と一緒に楽しみ、表現の楽しさややり遂げた満足感を共有できるようにする。

小学校教員が大切にすること

- ・音楽や図工などの表現活動を行う際には、児童の生活や体験をきっかけにして表現活動につなぐなど、児童の意識の流れを大切にすること。

- ・身の回りの出来事や自然事象の変化などに気付き、心が動いたことを音楽や造形、身体等によって生き生きと表現する。
- ・友達同士で表現を工夫しながら楽しく活動し、互いの表現を認め合い、自分の表現に取り入れたり、新たな表現を考えたりする。